

平成28年4月28日



問い合わせ先

第一管区海上保安本部 交通部

整備課長 武隈裕二

TEL 0134-27-0118 (内線2650)

航路標識（灯台）の防災対策の推進について

～平成28年度航路標識整備事業の概要～

海上保安庁では、東日本大震災において、航路標識の甚大な被害を受けたことを踏まえ、航路標識の防災対策を重点的に進めています。

第一管区海上保安本部では、平成28年度の整備にあたり、既存航路標識の耐波浪補強、LED灯器の強靱化や太陽電池化などの防災対策を計画的に進めるとともに、必要性の低下した航路標識の廃止など、事業の効率化を図った上で所要の整備を行うこととしています。

航路標識整備事業費(公共事業)：総額1億5千万円*

* 平成27年度繰越し予算分を含みます

1 防災対策

地震、津波等災害においても船舶交通の安全を確保するため、劣化による倒壊等が懸念される航路標識の耐波浪補強の整備を行います。

また、受圧面積を小さくし、耐波浪性能を向上させた灯台用光源(LED灯器)の強靱化及び電源の太陽光発電化(自立型電源化、配電線の解消)による災害時における電源の確保など、災害に強い航路標識の整備を進めます。

平成28年度においては、

- ・ 6 標識の耐波浪補強
(進捗率：89.1% (平成28年度末見込み))
- ・ 14 標識のLED灯器の強靱化
(進捗率：62.1% (平成28年度末見込み))
- ・ 7 標識の太陽光発電化
(進捗率：99.0% (平成28年度末見込み))

を行います。

2 航路標識の配置の見直し

GPSやAISなど航海計器の発達・普及など環境の変化に対応し、効果的に予算を執行するため、利用状況が変化し、必要性が低下した標識を廃止し、配置の見直しを進めます。

平成28年度においては、函館港中央ふ頭船だまり防波堤灯台（函館市）、余市港船だまり南防波堤灯台（余市町）、岩内港北突堤灯台（岩内町）アヨ口鼻灯台（白老町）、荻伏港南防波堤西方照射灯（浦河町）の5標識を廃止します。

平成28年度 航路標識整備事業箇所位置図



1 航路標識の防災対策の推進

耐波浪性能を満たしていない標識の補強を実施



【基礎補強】



【FRP補強】

耐波浪性能が向上したLED灯器の整備

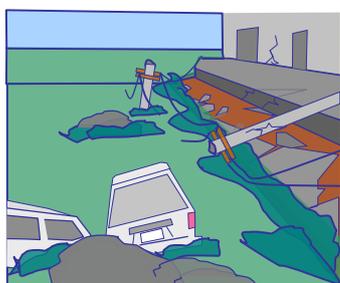


波浪によりLED灯器が破損



受圧面積が数倍小さくなり、耐波浪性能が向上

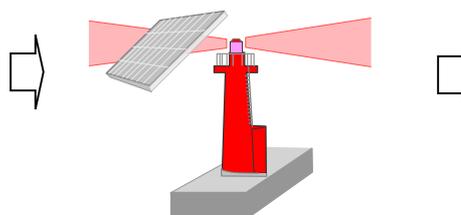
航路標識の電源を自立型（太陽電池化）とし、災害時における電源を確保



【災害発生】

配電線の切断や発電所のトラブルによる停電

外部電力の影響を受けずに運用が可能



ソーラーパネル

2 航路標識の配置の見直し

必要性が低下し、廃止しても影響が少ない灯台等の撤去

【函館港中央ふ頭船だまり防波堤灯台】



【余市港船だまり南防波堤灯台】



【岩内港北突堤灯台】



【アヨロ鼻灯台】



【荻伏港南防波堤西方照射灯】



【照射灯】

航路標識の防災対策の進捗率

資料3

	対象基数	平成27年度末		平成28年度末		次年度以降に整備	備考
		基数	進捗率	基数	進捗率		
耐波浪対策	274基	238基	(86.9%)	6基	(89.1%)	30基	対象基数は、全ての防波堤灯台
LED灯器の強靱化	277基	157基	(56.7%)	15基	(62.1%)	105基	対象基数は、全ての防波堤灯台及び灯標
自立型電源化 (太陽電池)	314基	304基	(96.8%)	7基	(99.0%)	3基	対象基数は、併設機器を含めた電源容量や経済性等から自立型電源化(太陽電池)が可能な標識

